

浜松市教育委員会会議録

- 1 開催日時 令和2年7月21日(火)
10時00分～12時45分
- 2 開催場所 イーステージ浜松オフィス棟6階
教育委員会室
- 3 出席状況
- | | |
|----------|-----------|
| 出席者 | |
| 教 育 長 | 花 井 和 徳 |
| 教育長職務代理者 | 鈴 木 茂 之 |
| 委 員 | 渥 美 利 之 |
| 委 員 | 安 田 育 代 |
| 委 員 | 黒 柳 敏 江 |
| 委 員 | 田 中 佐 和 子 |
- (職員)
- | | |
|------------------|-----------|
| 学校教育部長 | 伊 熊 規 行 |
| 学校教育部次長(教育総務課長) | 吉 積 慶 太 |
| 学校教育部次長(教職員課長) | 高 橋 宏 典 |
| 学校教育部参事(教育審議監) | 竹 内 孝 夫 |
| 教育総務課学校・地域連携担当課長 | 齋 藤 美 苗 |
| 指導課長 | 野 秋 愛 美 |
| 市立高等学校校長 | 柳 本 佳 奈 子 |
| 文化振興担当部長 | 中 村 公 彦 |
| 美術館長 | 飯 室 仁 志 |
| 博物館長 | 久 米 章 史 |
| 学校教育部副参事 | 石 野 政 史 |
| 指導課指導主事 | 土 屋 憲 司 |
| 指導課指導主事 | 山 本 裕 司 |
| 指導課指導主事 | 村 田 昌 士 |
| 指導課指導主事 | 宮 原 愛 |
| 指導課指導主事 | 新 村 和 弥 |
| 指導課指導主事 | 鈴 木 絵 美 子 |
| 指導課指導主事 | 富 永 雄 一 |
| 指導課指導主事 | 嶋 田 喜 守 |
| 指導課指導主事 | 神 村 由 貴 子 |
| 指導課指導主事 | 星 宮 ち さ と |
| 指導課指導主事 | 武 田 伸 江 |
| 指導課指導主事 | 池 谷 文 孝 |

指導課指導主事 田 中 寛 人
指導課指導主事 沖 田 正 伍

(事務局職員)

教育総務課長補佐 影 山 和 則
教育総務課総務グループ長 笹 ヶ 瀬 優
教育総務課主任 木 下 知 紗

- 4 傍聴者 18名
- 5 議事内容 別紙のとおり
- 6 会議録作成者 教育総務課 木下 知紗
- 7 記録の方法 審議事項について発言者の要点記録
録音の有無 無

8 会議記録

(教育長) 令和2年7月21日の浜松市教育委員会を開催する。

傍聴についてはどうなっているか。

(事務局) 18人から傍聴申込をいただいている。なお、今回は新型コロナウイルス感染症対策として、別室でのモニター視聴による傍聴とインターネットを介した傍聴を実施している。内訳はモニター視聴での傍聴が4人、インターネットを介した傍聴が14人である。

(教育長) 許可するという事で、よろしいか。

(異議なし)

(教育長) 許可することとする。

前回会議録の報告及び承認は回覧をもってお願いする。

本日の会議録署名人は渥美委員と田中委員のお二人にお願いする。

会期は本日限りである。

本日は、議案が4件、報告が1件ある。第37号議案、第38号議案については、いずれも令和3年度の教科書採択の関係であり、審議に時間を要するため、報告事項の後に審議する。

最初に、第35号議案「浜松市博物館協議会委員の委嘱及び解嘱について」文化財課から説明をお願いする。

(博物館長) 第35号議案「浜松市博物館協議会委員の委嘱及び解嘱について」説明する。議案は1ページ、議案の説明資料は3ページになる。

3ページをご覧頂きたい。提案理由は、令和元年7月1日から令和3年6月30日までの浜松市博物館協議会委員が1人辞任することに伴い、欠員が生じたため、令和2年7月21日より、新たに浜松市博物館協議会委員1人を委嘱するものである。2ページをご覧頂きたい。現任委員8人の内、家庭教育の向上に資する活動のため、浜松市PTA連絡協議会からの推薦で矢野氏が着任していたが、PTA役員の任期満了に伴い、後任の名倉氏を推薦頂いたものである。任期は令和2年7月21日から、前任の残任期間である令和3年6月30日までである。

説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) 本議案を承認してよろしいか。

(異議なし)

(教育長) 承認する。

次に、第36号議案「浜松市美術館協議会委員の任命及び解任について」美術館から説明をお願いする。

(美術館長) 第36号議案「浜松市美術館協議会委員の任命及び解任について」説明する。議案は5ページ、議案の説明資料は7ページになる。

7ページをご覧頂きたい。提案理由は、令和元年7月1日から令和3年6月30日までの浜松市美術館協議会委員が1人辞任することに伴い、欠員が生じたため、令和2年7月21日より、新たに浜松市美術館協議会委員1人を委嘱するものである。任期は令和2年7月21日から、前任の残任期間である令和3年6月30日までである。

説明は以上である。

(教育長) ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) 本議案を承認してよろしいか。

(異議なし)

(教育長) 承認する。

ここで、報告事項に移る。

(報告)

ア 浜松市学校運営協議会委員の任命について

(教育総務課)

(教育長) それでは、第37号議案の審議に移る。

第37号議案「令和3年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」市立高等学校から説明をお願いします。

(市立高校長) 第37号議案「令和3年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」説明する。

説明資料の1ページをお願いします。提案理由、採択内申、採択方法については、記載のとおりである。採択手順については、図のとおり①から④の手順で決定している。校内における教科用図書採択委員会に基づき、採択候補教科書を選定した。選定図書は別紙1のとおりである。国語から順番に令和3年度採択内申する教科書一覧および過去3年間の採択状況の報告を掲載している。各教科書の一覧には、主な採択理由も掲載してあるため、あわせてご覧頂きたい。

まず、全体概要から説明する。高等学校の新しい次期学習指導要領が一昨年(平成30年)3月に告示され、2年後の令和4年度の高校1年生(現中2生)より学年進行で実施される。地歴公民科の「公共」や、「地理総合」「歴史総合」の必修化をはじめ、従来と内容が大きく変わる。一方で、来年度の教科書は学習指導要領改訂を直前に控えているため、各発行者とも改訂版の新たな発行はない。

今回、採択内申にあげた令和3年度使用教科書は、3学年すべてを合わせて62冊である。内訳は、1年生が15冊、2年生が26冊、3年生が21冊である。また、全62冊のうち、すでに今年度使用中の教科書は、継続使用の教科書18冊を含めて59冊あるため、今回、新規で採択内申する教科書は国語で2冊、英語で1冊の計3冊となる。新規の教科書3冊は詳細説明し、継続使用の教科書は説明を簡略化させて頂く。また、継続使用の教科書18冊は、生徒が昨年度または今年度に、すでに授業で使用している購入済の教科書を、来年度も継続して使用する教科書のことである。内申書の「継続使用」欄に○印を付している。

それでは、始めに国語から説明する。1ページをご覧頂きたい。国語は全部で8冊である。新規の採択内申のものは2年生の「現代文B」で使用する教科書2冊(上・下巻)である。それ以外の継続使用の2冊を含めて、他の6冊の教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものである。

まず、1年生の「国語総合」は大修館の教科書を採択内申する。採択理由は、生徒が自主的・自発的に学習を進めやすい、また、基礎的で理解しやすい教材が選ばれているため、高等学校最初の1学年に適しているためである。

次に、新規採択内申する「現代文B」である。2年生では、「現代文B」「古典B」を文系・理系とも全員履修するが、そのうち「現代文B」は1年生と同じ、大修館の教科書を使用する。3年度は同じ発行者ではあるものの、「現代文B 改訂版 上巻」

と同「下巻」の2冊を、新たに採択内申する。今年度使用している同じ大修館の教科書に比べて、抽象度の高い文章まで収録されているのが特長である。大学入試の多様化に対応すべく、生徒が発展的な読書ができるレベルの内容になっている。また、1つのテーマに対して、標準から発展まで学べる配列に工夫がされている。現在使用中の教科書と異なり、上下巻の2冊に分かれているのも、多くの文章が収録されていることによるものである。教科書の内容がレベルアップしている点が、採択の特長である。同じく2年生で学習する「古典B」は、従来通り第一学習社の教科書を採択内申する。幅広いジャンルや、年代の作品がバランス良く採用されていることや、言語活動のページが自らの学びを深める手助けとなっていることが、引き続き採択内申する主な理由である。「古典A」は古典に親しむ態度を育成できる構成になっているため、引き続き、東京書籍の教科書を採択内申している。

3年生の「現代文B」「古典B」の計2冊は資料記載の通り、現在2年生で使用している教科書を継続使用する。また同じく3年生の「国語表現 I」は、選択履修となっており、第一学習社の教科書を採択内申する。親しみやすい表現教材、日本語理解のための文章が豊富であること、具体的な実践課題での解説が充実していることが主な理由である。

国語の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。国語について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、国語に関する質疑を終了し、採決に入る。国語については、内申書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、地歴公民の説明をお願いします。

(市立高校長) 地歴公民について説明する。2ページをご覧頂きたい。地歴公民は全部で12冊である。新規の採択内申のものはない。うち、継続使用のものは5冊である。12冊すべての教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものである。

それでは、公民から説明する。1年生の「現代社会」については、引き続き東京書籍の教科書を採択内申した。幅広い分野の単元から構成される「現代社会」という科目の特性を考えて、教材が系統的・発展的に組織され、他教材との関連が配慮されていることが主な理由である。各領域の内容分量・配分が適しており1年生が学びやすい構成になっている。

続いて、地理歴史について説明する。市立高校では、地理歴史は2、3年生で継続して履修する。世界史必修の現行教育課程では、「世界史A」または「世界史B」のど

ちらかを、必ず全員が履修することになっている。そのうえで、文系の生徒は「日本史B」または「地理A」を、理系の生徒は「地理B」を履修することになる。「世界史A」については、第一学習社の教科書を続けて採択内申する。「世界史A」は少ない時間数で、世界の歴史を俯瞰しなければならないため、難しい科目であるが、生徒の学びの実態に合った時代構成と、流れのなかでわかりやすく記述されていることが採択の主な理由である。一方、「日本史B」「世界史B」については、山川出版社の教科書を引き続き採択内申した。いずれも教材が系統的・発展的に組織され、時代の流れを大きくとらえやすい点が、生徒の学びに適した内容であるというのが主な理由である。「地理A」については、帝国書院の教科書を引き続き採択内申する。図表が豊富であることから、生徒自らが課題解決する際に、資料活用しやすいことが主な採択理由である。「地理B」「地図帳」についても、ともに帝国書院の教科書を採択内申する。基礎・基本の理解や習得の徹底に配慮された構成で、理系の生徒でも学びやすくなっている点が主な理由である。3年生では、いずれの科目も教科書は継続使用になる。

地歴公民の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。地歴公民について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、地歴公民に関する質疑を終了し、採決に入る。地歴公民については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、数学の説明をお願いします。

(市立高校長) 数学について説明する。3ページをご覧頂きたい。数学は全部で7冊である。新規の採択内申のものはない。うち、継続使用のものは2冊である。7冊すべての教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものである。

1年生で使用する「数学Ⅰ」「数学A」「数学Ⅱ」の計3冊について、今年度も数研出版の教科書を採択内申した。例題やその解法の解説について、計算の経緯や背景が的確に示されており、生徒が問題を解くにあたり、見通しを掴みやすくなっているためである。また、例題が精選されており、生徒の自発的な気付きを促す良問が揃っている。また、単元の終わりに、まとめの考察が1ページにまとめられており、振り返りの学習も進めやすいことなどが、採択をした理由である。

2年生が使用する「数学Ⅱ」は継続使用、「数学B」「数学Ⅲ」の2冊は、1年生で使用した教科書との継続性から、数研出版の教科書を昨年引き続き採択内申する。3年生の「数学Ⅲ」は、2年生からの継続で同じく数研出版の教科書を採択内申する。数学の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。数学について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、数学に関する質疑を終了し、採決に入る。数学については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、理科の説明をお願いします。

(市立高校長) 理科について説明する。4ページをご覧頂きたい。理科は全部で14冊である。新規の採択内申のものはない。うち、継続使用のものは7冊である。14冊すべての教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものになる。資料は上から「化学」「物理」「生物」を学年順に掲載している。市立高校の理科は、1年生で必履修科目として「物理基礎」「生物基礎」の2科目を履修し、2年生で「化学基礎」を履修することにより、必履修である理科基礎科目の3科目を履修します。

1年生の2科目についてである。「物理基礎」は数研出版の教科書を、昨年に続いて採択内申する。他者の教科書に比較して、公式等の表示が大変わかりやすいのが特長である。また、単元の順番が関連項目ごとに順序よく扱われていることも良い点であり、1年生で物理が苦手と感じている生徒にも適している。「生物基礎」は、第一学習社の教科書を引き続き採択内申する。図表についてのわかりやすさが際立っていることが特長である。1年生にとっては、特に人体の構造や細胞分裂の過程など、言葉による記述だけでは全体を捉えづらい分野があるが、情報量が適当で、一目でわかりやすい点が評価できる。的確で分かりやすい図表により、知識の概念を掴みやすく、授業を展開するうえで適している。生物科目は、1年生の「生物基礎」と2年生以降、理系が選択する「生物」という2科目で構成されるが、第一学習社の教科書は、1年生で学習すべき内容に絞って、丁寧に記述されていることから、生徒の発達段階に照らしても、学習しやすい内容となっている。

2年生の「化学基礎」については、数研出版の教科書を昨年に引き続き採択内申する。本文や問題等について、系統的に統一性がはかられていて、生徒が自ら学びやすい内容になっている。内容的にも適切に精選されていることから、文系の生徒でも、生徒自ら学びやすい内容となっていることが主な理由である。

次に、2、3年生継続で理系生徒が学ぶ、基礎の名を付さない理科科目である。「物理」は、1年生で学んだ「物理基礎」との系統性を考慮して、2年生と3年生で継続して数研出版の教科書を使用し、生徒が順序よく学びやすくなるよう今年度も引き続き採択内申した。「生物」については、2年生と3年生で継続して、やはり同様の理由で第一学習社の教科書を使用する。「化学」についても、基礎・基本の理解や習得の徹

底に対して配慮された数研出版の教科書を2、3年生で継続使用する。2、3年生文系の生徒の「物理基礎」「生物基礎」は、1年生から継続使用の教科書を使用する。

理科の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。理科について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、理科に関する質疑を終了し、採決に入る。理科については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、保健体育の説明をお願いします。

(市立高校長) 保健体育について説明する。5ページをご覧頂きたい。保健体育は全部で2冊である。うち、継続使用のものが1冊である。2冊とも、昨年度までにすでに採択内申されたものになる。

1・2年生で継続して全員履修する「保健」は、大修館の教科書とした。見開きで1授業時間分相当の内容になっており、週1時間しか配当されていない「保健」の授業では、見開きで完結する構成は、生徒が学習を進めやすい点で優れている。また、適切な内容が精選され取り上げられていることも良い理由である。2年生は、1年生の時の教科書の継続使用となる。

保健体育の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。保健体育について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 表の見方について確認だが、採択理由欄の「1」はこれまでの表の「○」に置き換えて捉えてよいか。

(市立高校長) その通りである。教科により異なるが「○」または「1」が採択理由である。

(教育長) それでは、保健体育に関する質疑を終了し、採決に入る。保健体育については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、芸術の説明をお願いします。

(市立高校長) 芸術について説明する。6ページをご覧頂きたい。芸術は全部で9冊である。資料は上から順に「音楽」「美術」「書道」の順に掲載している。高等学校の芸術は音楽、書道、美術の3つの科目からなる。そのうち、どれか1つを生徒が選択して履修する。教科書に新規の採択内申のものはない。また、継続使用のものもない。9冊すべての教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものになる。

全員が選択履修する1年生の「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」「美術Ⅰ」について、3冊ともに昨年度に続いて採択内申する。「音楽Ⅰ」は教育芸術社の教科書とする。音楽の基礎的事項を網羅し、系統的かつ発展的に構成されていて、本校生徒の実態に合っていると判断できるためである。「書道Ⅰ」は光村図書社の教科書を引き続き採択内申する。図版が大きくかつ鮮明で、作品の解説がわかりやすく、生徒が主体的に学べる構成になっている。「美術Ⅰ」は日本文教出版の教科書を引き続き採択内申する。美術資料が大変充実していることから、生徒の興味・関心を高めたり、授業中の活用が期待できるためである。また、作品の技術的な解説も多く掲載されている。

2、3年生の選択履修科目である「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「美術Ⅲ」「書道Ⅱ」「書道Ⅲ」は系統性を重視して、同じ発行者のものを使用し、教材の偏りが無いよう生徒に配慮することが主な採択理由である。一方で「音楽Ⅲ」については、音楽之友社社の教科書を昨年に引き続き採択内申する。音楽大学等への進学者が多く履修するこの科目は、音楽を専門的に勉強する生徒に対して、音楽の分析や創作課題などが豊富に収録された内容の教科書が適しているとして、こちらを採択内申する。「音楽Ⅲ」の履修者は毎年数名程度である。

芸術の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。芸術について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、芸術に関する質疑を終了し、採決に入る。芸術については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、英語の説明をお願いします。

(市立高校長) 英語について説明する。7ページをご覧頂きたい。英語は全部で6冊である。うち新規の採択内申が1冊ある。継続使用のものは1冊である。新規を除いた5冊の教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものになる。

1年生では「コミュニケーション英語Ⅰ」「英語表現Ⅰ」の科目を履修する。そのう

ち「コミュニケーション英語Ⅰ」は、今年度の数研出版に替えて、東京書籍の「PROMINENCE English CommunicationⅠ」を新たに採択内申する。近年の大学入試の変化に合わせ、語彙力の定着により適した教科書を選定した。英文中に日本語で同様の意味をあらわす英単語が複数収録されており、これによって様々な英語表現を学びやすい内容になっている。また、扱う題材も偏りがなく、生徒の英語力向上が期待できる。一方、同じ1年生の「英語表現Ⅰ」については、引き続き、いづれ書店の教科書を採択内申する。文法の例文が身近な内容で、1年生にとって内容の理解や定着に優れている点が評価できる。

2年生の「コミュニケーション英語Ⅱ」と「英語表現Ⅱ」は、体系立てた継続的な指導のため、同一の発行者のものをそれぞれ採択内申した。そのうち「コミュニケーション英語Ⅱ」は、今年度1年生の継続的な指導のために、来年度も数研出版の教科書を採択内申する。新出の語彙が本文中に繰り返し登場することで、定着につながる。また、付属のデジタル教材が充実しており、生徒が英文を聞く、読む、話す活動に授業展開がしやすいことも採択内申の理由である。

3年生の「コミュニケーション英語Ⅲ」は、引き続き、数研出版の教科書を採択内申する。生徒の基礎・基本の理解や習得に対して配慮がされた内容であり、なおかつ生徒の興味関心を高める構成となっている。加えて、短い英文を回数を多く読ませることが効果的であることから、採択内申する。3年生の「英語表現Ⅱ」はいづれ書店のものを継続使用する。

英語の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。英語について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 「コミュニケーション英語Ⅰ」の教科書が変わるとのことだが、先生方は教科書を選定するにあたり、3年間を見越して考えているのか、それとも単年で考えているのか。

(市立高校長) 3年間の継続的な使用を見越して選定している。また、内容に社会情勢を反映させたもの等も考慮している。近年、生徒の学力レベルが上がっているため、使用教科書のレベルアップを徐々に図っているところである。

(鈴木委員) 説明の中でデジタル教材について触れられていたが、他科目も含めてデジタル教材の位置づけを教えてください。

(市立高校長) 教師が授業教材として、生徒に説明する際に使いやすいものを選定している。教員指導用の目的が主である。

(教育長) それでは、英語に関する質疑を終了し、採決に入る。英語については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、家庭の説明をお願いします。

(市立高校長) 家庭について説明する。8ページをご覧頂きたい。家庭は全部で3冊である。新規採択、継続使用のものはない。3冊すべての教科書が、昨年度までにすでに採択内申されたものになる。1年生で「家庭基礎」を男女とも全員履修する。

「家庭基礎」は昨年度に引き続き、第一学習社の教科書を採択内申する。生徒自ら課題解決的な学習が意図されており、生徒の主体的な学習活動が期待されるためである。2年生で選択して履修する「フードデザイン」については、実教出版の教科書を昨年に引き続き採択内申する。各栄養素について丁寧な説明がされ、1年生の既習事項をさらに発展させた内容の学習に適している。調理実習例も多く内容が詳しく、授業で多く実習を行う点で優れている。3年生の同じく選択科目の「ファッション造形基礎」については、2年生との系統性を考慮し、昨年度と同じく実教の教科書を採択内申した。製作過程の図解が分かりやすく生徒の実習に適している。

家庭の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。家庭について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、家庭に関する質疑を終了し、採決に入る。家庭については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、情報の説明をお願いします。

(市立高校長) 情報について説明する。資料は9ページである。情報は1冊のみである。昨年度までにすでに採択内申されたものである。

1年生で使用する「社会と情報」は、実教出版の教科書を採択内申した。教科書の構成について、講義の場面と実習の場面が明確化されていることから、授業展開を組み立てやすくなっている。実習用のソフトも、社会へ出たときに必要なエクセルやパワーポイントなどが扱われているのが特長である。他者の教科書では、これらの扱いが意外にも少ない。今の高校生は、スマートフォンの操作はよくできるが、パソコンでこれらのソフトの操作になじみがなく、授業展開上の課題の1つである。他にも、個々のアプリケーションの説明が的確で、詳細であり、生徒が自ら学習を進められる点も評価できる。

情報の説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。情報について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、情報に関する質疑を終了し、採決に入る。情報については、内申書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

第37号議案「令和3年度使用浜松市立高等学校教科用図書の採択について」は以上である。

続いて、第38号議案「令和3年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」指導課から説明をお願いします。

(指導課長) 第38号議案「令和3年度使用浜松市立小・中学校教科用図書の採択について」説明する。

小学校で使用する教科用図書の採択について説明する。資料1ページの1をご覧頂きたい。小中学校において使用する教科書は、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第14条とその施行令である第15条により、同一の教科書を4年間採択することとなっている。従って、表1の今年度の教科用図書と同一のものを使用することになる。

説明は以上である。

(教育長) 小学校の教科書について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、小学校の教科書に関する質疑を終了し、採決に入る。小学校の教科書については、引き続き採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、中学校の教科書採択案について説明をお願いします。

(指導課長) 中学校で使用する教科用図書の採択について説明する。資料1ページの2をご覧頂きたい。文科省より、中学校はすべての教科書について新たな採択をする

こととなっている。資料2ページをご覧頂きたい。静岡県内においては、11の採択地区に分かれており、うち浜松地区では「静岡県教科用図書の採択指導の基本方針」に沿い、「浜松地区教科用図書選定委員会」及び「浜松地区教科用図書研究委員会」を立ち上げ、調査研究を行ってきた。採択までの経過は2ページに示したとおりである。また、調査研究の際には、3ページの「浜松の観点」を盛り込み、調査研究報告書にまとめた。7月10日の第2回浜松地区教科用図書選定委員会において、研究委員会からの報告を受け、慎重に協議した上で、資料4ページの浜松市の子供の学びにふさわしいと思われる採択案が決定した。なお、この教科書採択については、教科書発行者等、外部からの働きかけにより採択が歪められなどの疑念が抱かれることのないよう、静謐な採択環境の確保が求められていることから、7月10日の選定委員会に至るまでの全ての作業において、委員会の委員名や委員会開催日等、全て極秘で行い、研究に使用する教科書見本についても、発行者名をマスキングした状態で行った。

各教育委員には、7月15日の教科用図書勉強会において、浜松地区教科用図書研究委員会が作成した調査研究報告書を確認しながら、全ての発行者の教科書を手に取り、十分な時間をかけて協議頂いた。そのため、本日、委員の皆様の手元には、特にお示ししたい記載のある教科書のみを用意した。用意した教科書のみでは分かりづらい部分は、質問いただければ指導主事から回答する。本日は本採択案をもとに審議いただき、令和3年度から中学校で使用する教科書を決定していただきたい。なお、県が示す採択指導の基本方針に則り、教科書展示会でのご意見や各中学校巡回見本における調査研究報告書も必要に応じて閲覧できるようにしている。

それでは、浜松地区教科用図書選定委員会委員長により建議されている採択案について、ピンクの表紙の研究報告書をもとに、各者の教科書の特長と推薦理由を指導主事から説明する。国語から順に報告する。

(指導課指導主事) 国語では、発行者が4者ある。研究の観点として「生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう、学習過程が工夫されているか」「生徒が資質・能力を確実に身に付けることができるよう、効果的に教材が配列されているか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。各教材間にある「学びの扉」と巻末の「基礎編」を関連付けることで、実生活に活かせる力を身に付けることができるように構成されている。また、文学教材では複数の教材を配列することで、批評をしたり、表現の多様性を学んだりすることができるような構成になっている。次に、三省堂である。教材の初めに「目標」が記されており、身に付けるべき力を把握できる。また、「学びを広げる」では、読み深めるための多様な言語活動が示されている。「読み方を学ぼう」では、文の種類に応じた読む技能が示されており、実生活で応用可能な力を身に付けることができるように工夫されている。次に、教育出版である。「SDGs」の視点が、各分野に示されており、生徒が社会的事象に着目しながら読む力を身に付けられるように配慮されている。また、「読むこと」の領域の学習を中心に、「学びナビ」で示された視点を基に教材を読み、「道しるべ」でより深めることができるように配列が工夫されている。最後に、光村図書である。学習指導要領に基づく学習過程が明確に示されており、視覚的に学習活動をつかむことができるように工夫されている。また、各

単元において、様々な言語活動が示されており、教師が創意工夫することで生徒の発達段階や実態に応じた授業が展開できるよう配慮されている。また、「読むこと」の領域と「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の教材を組み合わせることで、単元が構成されている。異なる領域を相互に関連させながら学習を進めることで、付けたい力を効果的に身に付けられるよう配列が工夫されている。さらに、デジタルコンテンツが充実している。他の発行者でも二次元コードが記載されているが、光村は教材のページに示されており、「プレゼンテーションのモデル動画」「筆者のインタビュー動画」等、生徒の興味・関心を高めたり、学習内容を深めたりするようなデジタルコンテンツへ簡単にアクセスできるようになっている。以上、4者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、光村図書が採択案となった。その理由は、学習指導要領に基づいた学習過程が明確に設定された上で、幅の広い選択肢をもたせた言語活動が設定されており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている点、異なる領域の教材を効果的に配列しており、学習指導要領に示された資質・能力を確実に身に付けることができるよう配慮されている点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。国語について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 各教科書に二次元コードが記載されているとのことだが、選定するにあたりどのくらい重視したか。

(指導課指導主事) デジタルコンテンツは自学自習や家庭学習に活用できるため、充実しているに越したことはないと思う。しかし、教科書の内容や生徒の学習補助としての位置付けと考え、教科書の配列や内容をより重視した。

(教育長) それでは、国語に関する質疑を終了し、採決に入る。国語については、光村図書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、書写の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 書写では、発行者が4者ある。研究の観点として「生徒が、見通しをもって学習に取り組むことができるよう、学習過程が明確に設定されているか」「毛筆と硬筆とを関連させながら学ぶことができるように工夫がなされているか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。学習内容が「書写のかぎ」に示され、生徒自身が身に付けたい力を意識しながら、見通しをもって学ぶことができる。また、巻末の「書写活用ブック」の各書式のページには「書写力アップ」の欄があり、文字を生かした表現のための具体的なポイント等が書かれている。次に、三省堂である。

学習内容ごとに、明確なめあてと説明が大きな文字や図で示され、目標に向けて学びを深める構成になっている。また、単元ごとに、毛筆の学習で身に付けた力を硬筆の学習に生かすページが充実している。次に、教育出版である。見開き1ページの中に学習活動の流れが明確かつ丁寧に示され、技能の習得を確実に出来るように工夫されている。また、ノートのまとめ方やレポート作りなどが紹介されており、書写で身に付けた力を他教科の学習等に生かせるよう工夫されている。最後に、光村図書である。各単元では、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の学習過程が設定され、見通しをもって学ぶことができるように構成されている。また、別冊の「書写ブック」は、毛筆と硬筆とを関連させながら、系統的に基礎的な技能が定着していく構成になっている。そして、デジタルコンテンツが充実している。他の発行者でも二次元コードが記載されているが、光村図書は教材のページに示されており、教科書の題字を中心に様々なデジタルコンテンツへ簡単にアクセスすることができる。以上、4者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、光村図書が採択案となった。その理由は、見通しがもてるように学習過程が明確に設定されており、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように配慮されている点、毛筆と硬筆を相互に関連させながら、系統的に学ぶことができるように配慮されている点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。書写について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 書写ブックを3年間継続使用することについて、研究委員会でどのような意見が出たか。

(指導課指導主事) 書写ブックの良さは、日常生活とつなげながら確実に書写の力が身についていくように系統的に内容が整備されている点である。また、書き込みが可能であり、3年間の継続使用により、振り返りながら確認できる点が評価された。

(黒柳委員) 毛筆の授業での教科書の使い方を教えてほしい。

(指導課指導主事) 手本として横に置いたり、拡大したものを印刷して配る場合もある。

(黒柳委員) 題字の書体が各者異なるが、その違いについて研究委員会でどのような意見があったか。

(指導課指導主事) 同じ題字でも、発行者により書体が異なる点は見受けられたが、指導内容の違いによる書体の相違であり、付きたい力により適切な書体が選定されていると考えるため、研究委員会では特に意見は出なかった。

(教育長) それでは、書写に関する質疑を終了し、採決に入る。書写については、光

村図書の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、地理の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 地理では、発行者が4者ある。研究の観点として「地域的特色を理解したり、情報を効果的に調べまとめる技能を習得したりして、地理学習の楽しさを体感できるか」「日本や世界に見られる課題の解決に向けた社会参画意識や思考力・判断力・表現力を身に付けられるか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。各節には、節を貫く「探求課題」が設定されており、その解決につながる「学習課題」が見開きページで示され、段階的に課題解決を図ることができる。また、単元の終わりに知識の理解を深める「基礎・基本のまとめ」がある。さらに、思考ツールなどを使い対話的に学ぶ「まとめの活動」があり、知識と思考力・判断力・表現力をバランスよく育成できる。次に、帝国書院である。巻頭に、SDGsの内容が分かりやすく示されている。また、持続可能な社会をつくるための取組を紹介する「未来に向けて」が数多く掲載され、分野全体を通して、よりよい社会の実現に向けた社会参画への意識を高めることができる。見開きページには「学習課題」が設定されており、解決することを通して各節の問いについて考察することができるように、問いのつながりを意識して構成されている。各章や各節の最後には「節の学習を振り返ろう」が設けられており、表や構造図を使いながら、事象を様々な角度から考察し、地域的特色を理解することができる。また、「技能をみがく」のコーナーが数多く設けられており、基礎的な技能が身に付けられる。さらに、資料が見やすく加工されていて、事象を的確に捉えることができる。次に、教育出版である。巻頭に小学校の学習を振り返り、中学校の学習を見通すページが設けられている。学習内容と関連する「地理の窓」や今日的な課題について考える特設ページが設けられており、発展的な学習をすることができる。最後に、日本文教出版である。巻頭には、地理的な見方・考え方がイラストとともに示されている。各章や各節の終わりには「学習のまとめ」が設定されており、知識を確認することができる。また、「アクティビティ」は対話的な活動を通して事象を様々な角度から考察することができる。以上、4者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、帝国書院が採択案となった。その理由は、地域的特色を理解したり、情報を効果的に調べまとめる技能を習得したりするための工夫が、構成や資料の提示の仕方に表れている点、日本や世界に見られる課題の解決に向けた社会参画意識を育んだり、思考力・判断力・表現力を身に付けたりするための言語活動が充実している点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。地理について、ご意見、ご質問はあるか。

(田中委員) 帝国書院の図表が鮮明であるのと、文字がはっきり表示されているところが良いと感じた。

(鈴木委員) 浜松市や静岡県等、住んでいる地域の説明や図表が掲載されているとより身近に感じられる。採択案の教科書には、どのように掲載されているか。

(指導課指導主事) 各者とも静岡県に関わる内容が盛り込まれている。帝国書院の教科書には、234ページに「新たなものづくりの挑戦を続ける静岡県浜松市を例に」と浜松市の事例が取り上げられている。

(教育長) それでは、地理に関する質疑を終了し、採決に入る。地理については、帝国書院の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、歴史の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 歴史では、発行者が7者ある。研究の観点として「意欲や見通しを持って主体的に学習に取り組むことができる工夫がされているか」「各時代の特色を多面的・多角的に考察し、日本の歴史の大きな流れを理解することができるような工夫がされているか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。多くのページに、「見方・考え方」として資料の着眼点や考え方の方向性が示されており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができる。また、「みんなでチャレンジ」が設定されていて、対話的活動の中で見方・考え方を働かせ、思考力・判断力・表現力を高めることができる。次に、帝国書院である。各章のはじめに「タイムトラベル」を設け、各時代の特徴をイラストで分かりやすく示すことで、興味・関心を高く持って学習を進めることができるように工夫している。また、ほかの時代と比較したり疑問点を発見したりする活動が設定されており、生徒が各時代の様子を概観することができる。次に、各章や各節を貫く問いが設けられ、生徒が見通しを持ちながら学習を進めることができる。見開きページは「確認しよう」「説明しよう」を使って課題に対して振り返ることができる。確認し、確実に内容を理解することができる。「章の学習を振り返ろう」では、年表や地図などを使い、学んだ知識を整理することができる。また、章を貫く問いに対して、多面的・多角的に考察する活動が設定されていて、歴史の大きな流れや時代の特色をとらえることができる。次に、教育出版である。巻頭の「歴史すごろく」や小学校で学習した人物にマークが付されていることにより、小学校の内容を振り返りながら学習を進めることができる。「歴史の技」では、基礎的な技能を確認することができる。また、学習内容と関連した内容が「歴史の窓」として数多く掲載されている。次に、日本文教出版である。見開きページに「見方・考え方」が毎回分かりやすく示されており、歴史的な見方・考え方を働かせながら、主体的に学習に取り組むことが

できる。各編の終わりには「アクティビティ」が設けられており、習得した知識を関連させながら各時代の特色を捉えることができる。次に、山川出版である。「〇〇世紀の世界」では、世界の出来事がイラストで分かりやすく示されており、背景となる世界の歴史の概要を捉えることができる。また、歴史的事象について丁寧に解説がなされている。さらに、見開きページの最後には「ステップアップ」があり、発展的に学習を深めることができる。次に、育鵬社である。「歴史のターニングポイント」では、各時代を代表する出来事について議論する場が設定されており、思考力・判断力・表現力を高めることができる。各章の終わりには「私の歴史博物館」をデザインする活動が取り入れられ、生徒が各時代の特色を捉えることができる。最後に、学び舎である。見開きページの始めに印象的なタイトルが付けられており、生徒の興味・関心を引き出すことができる。また、多様な資料を大きく鮮明な画像で掲載しているため、生徒が必要な情報を的確に読み取ることができる。以上が7者の主な特長である。研究委員会では、東京書籍と帝国書院の教科書が優れていると認められたが、各章のはじめにある「タイムトラベル」で時代の変化を捉えることができるところが決め手となり、帝国書院が、浜松の子供の学びにふさわしいと推薦された。選定委員会においても、協議の結果、帝国書院が採択案となった。その理由は、構成や資料の提示方法が工夫されていて、意欲や見通しを持って歴史学習に向かうことができる点、各時代の特色を多面的・多角的に考察し、日本の歴史の流れを理解するための活動が充実している点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。歴史について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 新たな発行者に変わるとのことだが、これに関して学校への教科書巡回の研究報告書ではどのような意見があったか。

(指導課指導主事) 各時代の変化の様子を大きく捉えることが学習指導要領にも強調されており、「タイムトラベル」が時代の特色を捉えるうえで分かり易いとの意見が多数あった。また「まとめの活動」で、様々なツールを使いながら知識・思考力・判断力を養うように工夫されており、ツールを使ってみたいとの意見もあった。

(鈴木委員) 歴史については発行者が変わり、地理・歴史ともに帝国書院の教科書になるとのことだが、発行者が変わることや同じ発行者の教科書になることについて、研究委員会での議論はあったか。

(指導課指導主事) 発行者が変わることにより、生徒に不利益がないか協議した。また、地理・歴史の発行者が別々になったとしても、教科ごとに学習を進めるため、影響は少ないとの結論だった。

(教育長) それでは、歴史に関する質疑を終了し、採決に入る。歴史については、帝

国書院の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、公民の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 公民では、発行者が6者ある。研究の観点として「現代の事象に対する関心を高め、見通しを持って学習を進めることができるように工夫されているか」「現代の事象について多面的・多角的に考察し、現代社会の仕組みや働きを理解することができるように工夫されているか」「よりよい社会の形成に主体的に参画する意識や態度を高める工夫がされているか」の3点を重視した。最初に、東京書籍である。各章のはじめに今日的な課題が教材化された「導入の活動」があり、興味・関心を高めることができる。また、各章の最後には「導入の活動」と関連した「まとめの活動」が設けられており、章の学習を系統的に進めることができる。また、「みんなでチャレンジ」のコーナーが随所に設けられ、多様な思考ツールを活用した対話的な活動を行い、思考力、判断力、表現力を高めることができる。「18歳へのステップ」では、学習内容の更なる理解を促す情報が掲載されており、生徒が成年年齢の引き下げを自覚し、主体的に社会参画する態度を養うことができる。次に、帝国書院である。各章始めの「学習の前に」には、章の学習に関わる内容がイラストで掲載され、学習の方向付けができるように工夫されている。また、「アクティブ公民」や「Yes/No」では、多面的・多角的な思考につながる様々なテーマが取り上げられている。次に、教育出版である。各章の最後にある「学習のまとめと表現」では、3段階の「STEP」を踏みながら単元の学習を振り返り、次章の学習につなげることができる。また、SDGsを柱の1つとして、教科書全体が構成されており、巻頭でSDGsについて詳しく説明し、終章ではSDGsと結びつけて「私の提案」をする活動が設定されている。次に、日本文教出版である。「明日に向かって」では、点字の読み取り体験や自己と社会との関わりを感じることができるような話題が取り上げられており、生徒の興味・関心を高めることができる。「情報スキルアップ」では、調べまとめる技能を高めることができる。次に、自由社である。見開きページの最後の「ここがポイント」では、学習内容を端的にふり返ることができる。また、「アクティブに深めよう」では、新聞の読み比べや、魅力ある街づくりについての話し合い活動などが設定されており、思考力・判断力・表現力の育成を図ることができる。最後に、育鵬社である。各章の導入である「〇〇の入り口」に、章に関わる資料や活動が示されており、単元を学ぶ意義や進め方を理解することができる。各章の終わりの「〇〇のこれから」では、話し合い活動などを通して、思考力・判断力・表現力を高めることができる。以上が6者の主な特長である。研究委員会では、東京書籍と帝国書院の教科書が優れていると認められたが、見方・考え方や思考ツールを積極的に示し、現代の事象について多面的・多角的に考察し、現代社会の仕組みや働きを理解することができるところが決め手となり、東京書籍が、浜松の子供の学びにふさわしいと推薦された。選定委員会においても、協議

の結果、東京書籍が採択案となった。その理由は、現代の社会的事象に対する関心を高め、生徒が見通しを持って主体的に学べるように単元のまとまりを意識して構成されている点、よりよい社会の形成に主体的に参画する態度や主権者としての意識を育むことができる点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。公民について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) SDGsについて地理の説明の中でも触れられていたが、社会科全体として、どの分野での学習が浜松の子供の学びにふさわしいと考えるか。

(指導課指導主事) 地理、公民ともに学習する予定である。地理では、世界での事象を理解するところに力点が置かれており、公民では、世界はどうあるべきで自分たちはどうしていくかという視点で学びを深める。

(教育長) それでは、公民に関する質疑を終了し、採決に入る。公民については、東京書籍の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、地図の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 地図では、発行者が2者ある。研究の観点として「多様な課題解決に対応できる資料を十分に掲載し、世界や日本の姿を多面的・多角的に捉えることができるか」「中学生が活用しやすい配慮がなされているか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。巻末に、統計資料が豊富に掲載されており、生徒がデータから社会的事象を的確に捉えることができる。地域地図では、歴史的分野で学習する地名や文化財等が分かりやすく示されている。次に、帝国書院である。一つ一つの地図が大きく見やすいのが特長である。掲載されている資料の数が多く、地理的事象を様々な側面から捉えることができる。巻末には、最新の統計資料が豊富に掲載されている。また、文字や背景の色を変えたり、行間を広くとったりするなど、生徒が読み取りやすいように工夫されている。その他、巻頭5ページにわたり、地図帳の使い方が丁寧に解説されている。以上、2者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、帝国書院が採択案となった。その理由は、多様な課題解決に対応できる資料が数多く掲載されており、世界や日本の姿を多面的・多角的に捉えることができる点、地図の活用方法がわかりやすく解説されるとともに、資料が見やすく配置・配色され、中学生が活用しやすいものとなっている点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。地図について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、地図に関する質疑を終了し、採決に入る。地図については、帝国書院の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、数学の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 数学では、発行者が7者ある。研究の観点として「教科書を使って1人学びができ、且つ協働的な学びにも広げられる内容、さまざまな生徒に対応できる内容であるか」「浜松市の子供たちの課題である、数学的な用語を用いて自分の考えを根拠をもとに説明する力を身に付けられる工夫があるか」「生徒の意欲を高めるために、数学の学びを広げたり深めたりする工夫があるか」の3点を重視した。最初に、東京書籍である。各章の利用の場面にある「深い学び」では、問題解決の手順が記載され、協働的な学びや振り返り等の学び方が示されている。1年の0章「算数から数学へ」では、九九表を活用して整数の性質を学ぶことにより、数学への移行をスムーズに行うことができる。次に、大日本図書である。各章の活用の場面では、「問題を見いだそう」や「深めよう」などの問題解決の流れがわかりやすく示されており、発展的な問題にも自分で挑戦してみようという気持ちにつながると期待される。また、「学びにプラス」では、学習した内容を日常に生かす問いや、数学的な見方・考え方を広げられる問いが用意されており、生徒が数学への関心を高められるような工夫がなされている。他には、「考えよう」→「たしかめ」→「Q」→「プラスワン」→「補充問題」と、様々な問題が用意されているため、生徒自身が理解の度合いを把握しやすい構成となっている。次に、学校図書である。巻頭の「数学の力」章末の「役立つ数学」には、数学が身のまわりで役立っていることが実感でき、学習に対する意欲を高める工夫がなされている。「目標」や「どんなことがわかったかな」には、内容のまとめごとの学習のめあてや、まとめが明確に示されている。また、その後に「次の課題へ」が記載され、学びのつながりを重視した構成となっている。浜松市の子供の課題である「根拠をもとに自分の考えを説明する」場面が、日常の事象を扱った問題や様々な予想ができる問題で設定されており、例えば、1年生「データの活用」の単元の最後では、自分で必要な知識・技能を選択して、データを処理し、数学的用語を用いて説明する内容を扱っている。問題を載せるだけでなく、どんな視点で代表値を選ぶとよいかやデータのどこに注目して判断し、傾向をつかめばよいかも示されている。次に、教育出版である。各章の活用の場面では、既習内容を使って主体的に学習できるように「問題を見いだそう」「自分の考えをもとう」「みんなで話し合おう」等の問題解決の過程や言語活動が示されている。また、「学びのマップ」では、1年生では小学6年

間の学習内容を、2、3年生では前年の学習内容を示すことで、学習が系統的に進められていることを感じられ、復習の教材としても活用できるようになっている。次に、啓林館である。利用の場面では、日常の事象を数学的な見方・考え方を働かせて捉え、解決していく方法が、段階的に示されており、一つずつステップを踏みながら、考えを広げていけるような工夫がなされている。裏表紙を先頭にした上開きの「自分から学ぼう編」があり、本編となる「みんなで学ぼう編」で学習したことを個々の学びで確認したり身の周りの事象で活用したりと、数学が苦手な生徒にとっても自主的に取り組みやすい工夫がなされている。次に、数研出版である。「チャレンジ編」には、各章の内容を確認する問題や応用力を高める問題、難易度の高い問題が用意されており、理解の度合いに合わせて取り組むことができるようになっている。「探求ノート」は、教科書の内容と関連させつつ、新たな課題に挑んだり、身の周りの問題を解決したりする内容になっており、数学的な見方・考え方や問題解決の力を高めることができるように構成されている。最後に、日本文教出版である。「数学たんけん」や「数学を仕事に生かす」、「暮らしと数学」では、身近な出来事やデータを取扱い、数学と日常生活や他教科とのつながりを実感しやすくしている。1年生の7章「データの活用」では、自分の調べたいことについて、目的に合わせてグラフを作成し、傾向を読み取る活動が設定されており、数値を使った説明のよさを感じられる工夫がされている。以上が7者の主な特長である。研究委員会では、学校図書と教育出版の教科書が優れていると認められたが、用語の説明が丁寧なことや例題をもとに理解を深める問題が充実していることが決め手となり、学校図書が、浜松の子供の学びにふさわしいと推薦された。選定委員会においても、協議の結果、学校図書が採択案となった。その理由は、数学を学ぶ上で大切な「つながり」「かかわり」「ひろがり」に重点を置いて編集され、学びを体系化している点、子供たちが数学的な処理の良さを感じ、活用することで、自分の考えを論理的に伝える力がつくような工夫がなされている点、考えをまとめ表現する力を高めながら、協働的な学びに役立つ内容構成になっている点である。説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。数学について、ご意見、ご質問はあるか。

(田中委員) どの教科書も身近なものから結び付けて学びに変える工夫がされている。特に、データ分析の分野では、データが Excel などの表計算ソフトでどのように活用されていくのか、体系的に学べる教科書がいくつかあった。このような思考は、これからの子供達に大切であると考えます。

(教育長) それでは、数学に関する質疑を終了し、採決に入る。数学については、学校図書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、理科の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 理科では、発行者が5者ある。研究の観点として「見通しをもった観察・実験をもとに、問題解決的な力が身に付くようなつくりになっているか」「学習したことを振り返り、日常生活や社会との関連を重視したものになっているか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。探究的な学習課題が設定され、フローチャートで探究の過程を明確にしている。「結果の見方」「考察のポイント」によって、結果を分析・解釈する際のヒントを示している。また、キーワードを参考にして、各節の課題に対する結論を生徒自らがまとめることで、思考力・判断力・表現力を育成しようとしている。各節導入の「レッツ スタート！」や、「学びをいかして考えよう」「つながる科学」で身の回りの事象についての興味・関心を高める構成となっている。学んだことと実生活との関連が分かりやすく、理科の有用性を感じやすいものになっている。次に、大日本図書である。単元のはじめに「これまでに学習したこと」「これから学習すること」のページがあり、小学校での学習内容や他単元との関連を強く意識したつくりになっている。また、探究の過程では、問題解決に必要な力を意識して学習できる構成になっている。見通しをもって実験計画を立案し、観察・実験ができるよう「目的」「着目点」が示されている。「結果の整理」「結果から考えよう」「振り返ろう」で考察・振り返りができるようになっている。また、実生活とつながりのある資料が豊富であるため、生徒の興味・関心を高めるとともに、理科の有用性を感じることができる。「科学のあしあと」「Professional」などで過去の偉人や、理科に関連のある職業が多く紹介されており、生徒が自分たちの将来を考えるヒントになっている。他には、浜松科学館や天竜川が紹介されており、生徒が理科をより身近に感じることができる。3年の終章では、SDGsを意識して持続可能な社会の実現に向けて、生徒自身が調べたり、発表したりする場面が充実している。次に、学校図書である。探究過程での「考察」と「まとめ」がはっきり区別された構成となっている。また、単元学習の前後で自分の文章を比較し自己有用感を高める活動や対話的な学びによって考えを深める活動を紹介している。章末の「学びを日常にいかしたら」では、学んだ内容と実生活とのつながりが対話形式によってまとめられているため、生徒自身も対話に参加しながら考えることができる。「サイエンスカフェ」では学んだことを日常に生かしたものや、身の回りの危険、防災について示しており、理科の有用性や防災意識を高めようとしている。次に、教育出版である。見開き構成が多く、「準備」「方法」「結果」「考察」を丁寧なステップで示している。また、常に自分の考えを持ち、仲間との話し合いをしながら、学習を展開していく構成となっている。「疑問から探究してみよう」では身近なものや既習の経験からの課題が設定されているため、目的意識をもって学習に取り組むことができる。「ハローサイエンス」では、身近で素朴な疑問や、生活にかかわる理科、科学者などの話題が紹介されており、生徒の興味を引きやすいものになっている。最後に、啓林館である。各単元の探究過程で「探Qシート」を用いることで、生徒の主体的な活動をサポートしている。巻頭で、探究の過程をサイクルで示し、主体的に解決していくイメージを持たせている。単元末では、習得した知識・技能を統合して探究の過程に沿って解決していく「みんなで探Qクラ

ブ」を設定している。「みんなで解決」では、生活の中の疑問を対話的に解決できる場面が設定されている。「学ぶ前にトライ!」「学んだ後にリトライ!」で学習の振り返りを行い、学びが深まったことが実感できるつくりになっている。以上が5者の主な特長である。研究委員会では、大日本図書と啓林館の教科書が優れていると認められたが、理科室使用の学年間の重複に配慮されたものとなっていることが決め手となり、大日本図書が、浜松の子供の学びにふさわしいと推薦された。選定委員会においても、協議の結果、大日本図書が採択案となった。その理由は、理科の「見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことを通して科学的に探究する資質・能力を育成できるように、子供主体で学びやすい展開・内容に構成されている点、基礎的・基本的な理解・習得が得られるとともに、科学概念の定着に配慮した系統的・発展的な単元配列の工夫が見られる点、浜松市ならではの教材が示され、学んだことと日常生活・実社会との関係を重視している点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。理科について、ご意見、ご質問はあるか。

(鈴木委員) 理科室使用の重複という点が決め手とのことだが、大日本図書と啓林館の教科書には、具体的にどのような違いがあったのか。

(指導課指導主事) 理科の中には「生物」「化学」「地学」「物理」の分野があり、なかでも「化学」が理科室を使用する実験が多い。啓林館は、全学年ともに「生物」→「地学」→「化学」→「物理」で単元が構成されているため、学年間で理科室の利用が重複する。大日本図書は、この点を考慮した構成となっている。

(教育長) それでは、理科に関する質疑を終了し、採決に入る。理科については、大日本図書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、音楽（一般）の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 音楽（一般）では、発行者が2者ある。研究の観点として、「生徒が、「音楽的な見方・考え方」を働かせることを支える内容になっているか」「生徒が、『今の学びと将来や社会とのつながり』について感じ取ることができる内容になっているか」の2点を重視した。最初に、教育出版である。主要教材となる楽曲に対して、比較教材や発展教材が示されており、主要教材で学んだこと生かして、学びが広げ深められるように工夫されているのが特長である。「何が同じで、何が違う？」では、複数の音楽を比較して聴くことで、生徒が「見方・考え方」を働かせながら、表現の共通性や固有性について考え、それぞれのよさや美しさを味わうことができる。「私たち

のくらしと音楽」では、音楽の力を生かした社会との関わりについて学ぶことができる。次に、教育芸術社である。世代を超えた名曲や身近な楽曲が、国境やジャンルを問わず幅広く掲載されており、音楽的な視野を広げながら、音楽が私たちの生活に果たす役割を感じることができる。「深めよう！音楽」では、「音楽的な見方・考え方」を働かせ主体的・対話的な学びの中で、音楽を捉えることができるように工夫されている。新設された「生活や社会の中の音楽」では、SDGsなどの今日的な視点も取り上げながら、音楽と自分たちの生活や社会との関わりについて、段階的に視野を広げられるよう工夫されている。また、現在活躍中の各界のプロフェッショナルからのメッセージは、音楽の本質について考えることにつながるとともに、生徒のキャリア形成の一助になることが期待される。以上、2者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、教育芸術社が採択案となった。その理由は、生徒が、「音楽的な見方・考え方」を働かせるための手掛かりや仕掛けが随所に示されている点、生徒が、自分たちの生活や社会の中の音や音楽、音楽文化について視野を広げることができるよう工夫されている点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。音楽(一般)について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、音楽(一般)に関する質疑を終了し、採決に入る。音楽(一般)については、教育芸術社の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、音楽(器楽合奏)の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 音楽(器楽合奏)では、発行者が2者ある。研究の観点として「生徒が、「音楽的な見方・考え方」を働かせることを支える内容になっているか」「生徒が、『今の学びと将来や社会とのつながり』について感じ取ることができる内容になっているか」の2点を重視した。最初に、教育出版である。「学びのユニット」では、見開きでねらいやポイントがまとめられ、見通しをもって学習を進められるよう配慮されている。「何が同じで、何が違う？」では、複数の楽器の音色などを比較することを通して、共通性や固有性について考え、音楽的な視野を広げられるよう工夫されている。「楽器の仲間たち」のページでは、背景にある文化や伝統について調べることを通して、諸外国の音楽の特徴や多様性に気づき、音楽文化に触れることができる。次に、教育芸術社である。楽器のイメージがつかめるよう、充実した写真や図柄を使って分かりやすく構成されている。また、箏の奏法が数多く掲載されており、多くの選択肢の中から自分らしい音色づくりを試みることができる。これは、日本の音階を使って

旋律づくりをする「My Melody」にも生かせる構成となっている。「深めよう！音楽」では、主体的・対話的な学びの中で、曲趣にふさわしい奏法を工夫したり、パートの役割を考えて音色を選んだりするなど、課題意識をもって学べるよう工夫されている。また、幅広いジャンルの、生徒にとって魅力ある教材を通して、音楽文化と関連づけながら多角的に考えられるよう配慮されている。以上、2者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、教育芸術社が採択案となった。その理由は、「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、思いや意図をもって表現を創造工夫することができる点、多様な楽器や幅広いジャンルの楽曲を通して、生活や社会の中の音楽、音楽文化に関わることができる点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。音楽（器楽合奏）について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、音楽（器楽合奏）に関する質疑を終了し、採決に入る。音楽器楽合奏については、教育芸術社の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、美術の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 美術では、発行者が3者ある。研究の観点として「生活や社会に関わる題材や身近なものを材料とした題材が充実しているか」「生徒自身が造形的な視点を豊かに働かせて、表現及び鑑賞の学習に主体的に取り組むことができる工夫があるか」の2点を重視した。最初に、開隆堂出版である。各題材のタイトルの横に学習の目標が掲げられ、育成を目指す資質・能力の三つの柱が明確にされており、生徒にとって振り返りの視点となる。学習のポイントもわかりやすく示されている。また、専門家や著名人の言葉が掲載され、生徒のキャリア形成の一助となる。他には、教科書の巻頭に「学びの地図」を配置し、図画工作科で学習した内容との関連や美術科で学習する内容についてわかりやすく示されている。次に、光村図書である。鑑賞図版は、紙面での見せ方や紙質などに工夫を凝らしている。例えば『最後の晚餐』の作品にトレーシングペーパーを付け、鑑賞の方法に幅を持たせる工夫がされている。また、関連性の高い資料を並べて掲載することで、比較して鑑賞できるように配慮されている。他には、構想の手立てとなる写真や資料が豊富で、どの題材も表現と鑑賞が一体となり、学びが深まる構成になっている。例えば、1年生では「美術って何だろう」のタイトルで美術を学ぶ意義について触れ、2、3年生では社会の中での美術の働きについて気付かせる構成になっている。最後に、日本文教出版である。すべての題材

に、「学びの目標」として、美術科で育成を目指す資質・能力の三つの柱が具体的な言葉で示されている。「造形的な視点」が題材に合わせて示されることにより、生徒が、形や色、イメージでとらえることに意識して取り組むことができる。次に、鑑賞分野では、浜松市出身の芸術家「鈴木康弘さん」や秋野不矩美術館が掲載されている。他にも、デザイン分野では浜松市の市章や静岡県 の 県章が掲載されるなど、浜松市の中学生にとっては親しみやすくなっている。さらに、大きく見やすい写真資料が多く、実寸大での鑑賞ができる作品も掲載されている。特に、燕子花図屏風の作品は、折り曲げて立体的に鑑賞でき、本物の作品が実感できる。巻頭や巻末に社会で活躍する著名人のメッセージが掲載され、美術の学びが社会や実生活で生きて働くことを学べる内容が充実している。学習内容をきめ細かく分析し、発達段階によって、3分冊で構成しているため、題材数が豊富であり、地域や学校の実態に合わせて選択できるように工夫されている。以上、3者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、日本文教出版が採択案となった。その理由は、新学習指導要領に示されている美術科で育成を目指す資質・能力が身に付くように構成されている点、美術を学ぶ意義や美術の学びが社会や実生活で生きて働くことを実感できる内容が充実している点、3分冊で内容が構成され、題材数が豊富であるため、地域や学校の実態に合わせて選択できる点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。美術について、ご意見、ご質問はあるか。

(田中委員) 採択案の日本文教出版の教科書は、浜松の題材が豊富であるところが良いと感じた。また、光村図書の教科書では、ピクトグラムが大きく取り上げられていたが、国際化が進む時代において、これからの子供達の学びに必要と思う。

(教育長) それでは、美術に関する質疑を終了し、採決に入る。美術については、日本文教出版の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、技術・家庭（技術分野）の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 技術・家庭（技術分野）では、発行者が3者ある。研究の観点として「技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動が充実した内容となっているか」「問題解決的な学習を通して、主体的に進めるための工夫があるか」「持続可能な社会の構築に向けて、どのような工夫があるか」の3点を重視した。最初に、東京書籍である。情報の技術における知的財産権だけでなく、ものづくりにおける知的財産権についても触れる等、幅広い視野で技術と社会とのつながりを意識させることができる内容となっている。また、適切かつ誠実に技術

を生かしていけるよう、「Society5.0」だけでなく「SDGs」と技術の関わりについても関連付けられている。次に、教育図書である。主体的に問題解決を進めるため、「つくってみよう」では、製作手順が「4段階」で統一されており、製作を通して問題解決の力をつけることが期待できる。また、持続可能な社会の実現に向けて、すべての内容で、技術のプラス面、マイナス面が表にまとめられており、技術を様々な角度から考えることができるよう配慮されている。最後に、開隆堂出版である。生徒のアイデアによる構想図や試作模型を積極的に扱うことにより、学習過程を通して、既習の知識及び技能を活用しながら、思考力、判断力、表現力等を育成していくことが期待できる。また、本教科が取り組んでいる「問題の複線化」による学習の流れが取り入れられている。例えば、限られた条件のもと、生徒が最適な解決策を考え、実践できるよう工夫されている。他にも、持続可能な社会の構築に向けて、内容のまとめでは、環境問題や社会の要求等も踏まえながら、学習の振り返りができるよう配慮されている。以上、3者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、開隆堂出版が採択案となった。その理由は、ものづくりにおける「試作」を取り入れ、思考力・判断力・表現力等を育成していく内容が取り入れられている点、生徒の主体的な学びを進めていくうえで、問題の複線化による問題解決的学習の流れが取り入れられている点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。技術・家庭（技術分野）について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、技術・家庭（技術分野）に関する質疑を終了し、採決に入る。技術・家庭（技術分野）については、開隆堂出版の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、技術・家庭（家庭分野）の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 技術・家庭（家庭分野）では、発行者が3者ある。研究の観点として「生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などの実践的・体験的な活動が充実した内容となっているか」「問題から課題を持たせ、家庭での実践につながる工夫があるか」「持続可能な社会の構築に向けた内容が充実しているか」の3点を重視した。最初に、東京書籍である。多くの学校で展開されている3年間の学習の流れに合わせ、「家族と家庭生活」に関わる内容が最後にくるよう配列されている。また、3年間の学びを振り返ることができるチェックシートが掲載されており、自分の成長を振

り返りながら、次の学びへつなげられようになっている。次に、教育図書である。三者間契約、生活文化についてなど、社会の変化に対応した学習内容を、詳細に掲載している。「生活の課題と実践」に向けた学習の流れがまとめられており、生徒が例を参考に取り組んだりまとめたりできるよう工夫されている。最後に、開隆堂出版である。他者との共生を理解するため、社会状況に合わせた内容や写真を掲載したり、多文化共生について理解を図るため、様々な人のコメントが多く取り上げられている。また、生徒への支援に必要な写真や動画が多数準備されており、動画は短い時間で簡潔にわかりやすく作られ、右利き、左利きの両方について準備されていることが他者にはない特長である。他にも、問いかけから始まり、問題解決型学習を通して、家庭実践につながるように構成が工夫されている。持続可能な社会の構築に関わる学習内容が充実しており、各学習内容に対してSDGsとの関連事項を示すことで、生徒が学んでいることが社会とどのようにつながっているかを改めて結び付け、考えることができるようになっている。以上、3者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、開隆堂出版が採択案となった。その理由は、生活をよりよくするために問題から課題を持たせたり、生活や社会へ活かしたりする内容が充実している点、多文化共生の内容が充実しており、これからの浜松を支えていく子供の学びに適している点、浜松市が推進しているSDGsにつながる持続可能な社会の構築に関する内容が充実している点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。技術・家庭(家庭分野)について、ご意見、ご質問はあるか。

(黒柳委員) 開隆堂出版の教科書の「豆知識」が興味深い内容であった。他者にもあるか。

(指導課指導主事) 他者にも同様の掲載がある。

(田中委員) 開隆堂出版の教科書では、家族生活の中でLGBTについて取り上げられている。中学生ではまだ自己認識は難しいかもしれないが、折に触れて目にする事により、後々の自己表現につながると考えるため、ぜひ取り上げて頂きたい。

(指導課指導主事) 開隆堂出版の教科書は、他者との共生の分野が充実している点が特長である。

(教育長) それでは、技術・家庭(家庭分野)に関する質疑を終了し、採決に入る。技術・家庭(技術分野)については、開隆堂出版の教科書を採択することによろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、保健体育の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 保健体育では、発行者が4者ある。研究の観点として「生涯にわたって健康や安全に関する情報を選択したり、課題を適切に解決したりする力の育成や、健康の保持増進のために保健と体育が密接に関連していることを認識し、自分の生活において実践しようとする態度を育むことができるか」「保健学習への興味・関心を高めるための課題設定や深化・発展性のある問いにより、子供の考えを揺さぶる工夫があるか。また、支援し合いながら解決を目指せる学習展開となる工夫や現代的な課題に対応できる力を育成できる工夫があるか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。学習課題が疑問形で提示されており、「なぜだろう」と問いをもって、学習に入りやすい工夫がされている。また、教科書サイトに学習理解を高めるための動画や他教科リンク等が数多く収納されている。動画は短時間で、授業の中で活用しやすくなっている。動画は、大日本図書、学研の教科書にもあるが、特に、大日本図書は、章末のまとめ問題が充実しており、「応急手当」の動画が充実している。次に、大日本図書である。3年間のガイダンスとして「生きがいのある豊かな生活を！」という教科を学ぶ意義が示され、巻末では、生涯にわたって生命・生活・人生の質を高めて、生きがいのある豊かな生活とは何かを再度問うことで、高校年代へとつなぐ工夫をしている。各章末でも、発展的な問いを掲載することで、これまでの学習を振り返ったり、習得した知識を生かし、実生活に役立てたりすることができるように工夫されている。また、浜松市では、常に東海地震の危険性にさらされている地域柄、保健分野の技能として、心肺蘇生法を重視する必要がある。実習の手順が折込で網羅されており、生徒にとって活用しやすく、知識や技能が定着しやすい工夫がされている。他にも、1時間の本文を左ページに配置し、発達段階に応じた精選された内容を掲載している。また、「トピックス」が、どのページにも掲載され、自分の生活や社会の出来事と関連付ける工夫がされている。右ページには関連資料を数多く掲載し、中学生にとって見やすく、理解しやすい構成になっている。次に、大修館書店である。導入の「課題をつかむ」では、日常の生活体験を問いかけたり、選択式問いにしたりすることで、どの生徒も課題をつかみやすい工夫がされている。すべての人が、互いにわかりあい、支えあうことが自然にできる社会の実現をめざすことができるように、「共に生きる」という文字を巻頭に掲載し、より大きな視点で学びを深める工夫がされている。最後に、学研である。様々な単元で、チェックシートを活用して、自他の日常生活を振り返ることで、学習内容を身近なこととして受け取ることでできる工夫がされている。また、実習を伴う学習では、注意事項や禁止事項を赤字で示し、正しい技能の習得を促している。教科書の右下には、【JOB】として、学習内容に関連する仕事や資格の名前を記載することで、学習内容と職業とを結びつけやすくなっている。以上、4者の主な特長を説明したが、選定委員会で協議した結果、大日本図書が採択案となった。その理由は、各章末では、各時間で学んだ知識や技能を社会で「生かす学び」につなげる工夫をし、巻末では、3年間の学びを問い直し、自己の生き方やあり方につなげ

る工夫をしている点、実習等において活用しやすい資料を提示し、相互に支援し合いながら技能の定着を図り、実践力の向上につなげられる点、学習内容が同じレイアウトで統一されており、生徒にとって見やすく、理解しやすい仕立てになっている点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。保健体育について、ご意見、ご質問はあるか。

(意見なし)

(教育長) それでは、保健体育に関する質疑を終了し、採決に入る。保健体育については、大日本図書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、英語の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 英語では、発行者が6者ある。研究の観点として「小中における接続や現行学習指導要領からの移行がスムーズであるか」「聞くこと」「読むこと」「話すこと(やり取り)」「話すこと(発表)」「書くこと」の領域統合型の言語活動や即興的なやり取りが可能となる題材が充実しているか」「英語で何ができるようになるかが明確であり、生徒の学習意欲を高め、実際のコミュニケーションで活用できる力を身に付けることができるか」の3点を重視した。最初に、東京書籍である。小中の円滑な接続を図るために、Unit 0 から Unit 5 までは小学校で学んだ表現を音声中心に復習する構成になっている。既習事項はマークが示されている。また、Unit の終わりには「Grammar for Communication」が設けられ、生徒自ら文法事項を学習できるよう、日本語の説明だけではなく、イラストを用いて理解を助ける工夫がされている。次に、開隆堂出版である。「Scenes」では、プログラムで扱われる新出表現を2コマのマンガ型式で表しており、生徒には「どんな場面で使われる表現か」が一目でわかるようになっている。「Our Project」では、習得した知識・技能を使って、原稿を考え、内容を取捨選択し、自己表現をすることで、コミュニケーションに対する自信をつけることができる。次に、三省堂である。各プログラムに、生徒の興味・関心をひく絵や図、グラフ、海外で実際に使われている本物の資料が扱われている。「Reading for Information」では、実際の使用場面に近い英文を読み、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を読み取る力を育むことができる。また、「Lesson1」では、小学校で扱われた be 動詞と一般動詞を含んだ表現を並列で表すことで、文の構造について理解しやすいよう工夫されている。次に、教育出版である。食品ロスや介助犬、働くことの意義など、特定の分野に偏らない様々な題材が扱われ、文化の多様性に対して理解を深める内容が充実している。「Tips」や「How To Study」「Activities Plus」では、基本

的な知識・技能を培うだけでなく、生徒の自律的な学習を促す工夫がされている。次に、光村図書である。使用している写真や各コーナーのテーマが、海外で実際に使われているものや、日本と外国の文化的背景に基づくもののため、生徒の関心・意欲を高めることができる。各 Unit は、「扉」→「Part」→「Goal」で構成されており、段階的に言語材料を習得し、活用できる流れになっている。また、複数の単元を学習後、学んだ言語材料を「You can do it」で発展的に活用でき、学年の目標が明確に示されている。小中の接続を円滑にするため、1年生の冒頭にある「Let's Be Friends!」や小学校で学習した表現、英語の学び方ガイドでは、小・中の外国語学習の違いや学ぶためのポイントが分かりやすくまとめられており、負担感を減らす配慮がなされている。他には、各学年の巻末には「Let's Talk」が配置されており、3年間で「This is Me」「My Life」「My Future」という同じテーマをもとに、即興でやり取りする経験を継続的、発展的に積み重ねることで、自分の成長を実感できるようになっている。最後に、啓林館である。3年間で学ぶ全ての基本文や文法項目、英語のつづり、発音などを付録として掲載することで、高校の英語学習への橋渡しができるような配慮がなされている。また、各単元のとびらページに、本文で扱う写真が一覧で掲載されているため、単元の学習後、本文内容について写真を見せながら自分の言葉で伝える Retelling などの復習が可能である。以上が6者の主な特長である。研究委員会では、東京書籍と光村図書の教科書が優れていると認められたが、これから求められる即興的なやり取りの力を育む題材が充実していることが決め手となり、光村図書が、浜松の子供の学びにふさわしいと推薦された。選定委員会においても、協議の結果、光村図書が採択案となった。その理由は、各学年・各単元において、英語で何ができるようになるかが明確に示されている点、生徒の学習意欲を高めるような、海外で実際に使われている本物の資料や題材が充実しており、実際のコミュニケーションで活用できる力を身に付けられる点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。英語について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 教科書が変わることにより、章立てが「Lesson」から「Unit」が変わるが、子供達への影響はないか。

(指導課指導主事) これまでも教科書が変わるたびに「Program」から「Lesson」に変わる等、表現の変化はあったが、子供達はすぐに受け入れていたため問題ないと思える。

(田中委員) コミュニケーション力を高めるために光村図書の教科書を選定したとのことだが、高校生になると長編の物語を読む等、読み込む力も必要となる。読み込む力について、研究委員会ではどのような議論があったか。

(指導課指導主事) どの教科書も読む力を意識した読み物が掲載されており、Unit 等

で培った力を使って、長い文章を読むことに挑戦するような配列となっている。

(渥美委員) 英語の教科書を選定するにあたり、英語を母国語とする外国人は関与したか。

(指導課指導主事) 直接関与はしていないが、各学校の教科書見本の巡回で、ALTが目にするにはあり、意見をもらった学校もあった。

(渥美委員) 例えば外国の日本語学校の授業で、日本人が全く関与していないというのは違和感を感じるが、今後英語を母国語とする外国人が選定に関わるような予定はあるか。

(指導課指導主事) 頂いたご意見は、今後の参考とさせて頂きたい。

(教育長) それでは、英語に関する質疑を終了し、採決に入る。英語については、光村図書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

続いて、道徳の説明をお願いします。

(指導課指導主事) 道徳では、発行者が7者ある。研究の観点として「いじめについて考える学習が充実するよう、教材内容や指導方法、学年の系統性等について工夫されているか」「子供が主体的に学習に取り組めるよう、議論につながる多様な教材、質の高い発問例や指導方法等が掲載されているか」の2点を重視した。最初に、東京書籍である。各学年とも「いじめ」と「生命の尊さ」の項目をユニットとして設定している。まとまった時間をかけることで、考えを発展させることができる。読み物だけでなく、漫画や絵本、イラストや詩など多種多様な教材が取り上げられている。また、書き込みページを多く設け、「アクション」などの体験的な学習や討論など、多様な指導方法に取り組むことができる。次に、教育出版である。教材名の下にある人型のマークは、「いじめや差別のない社会について深く考える教材」を示している。「いじめ」を扱った教材では、ユニットが生まれ、数時間かけて指導できるように配慮されている。また、22の内容項目に対応する教材が提示されているが、この目次では、それぞれの教材を、身近で現代的な課題と関連づけて学習できるように、7つのテーマに分類して掲載している。特に、「いじめ・人権」「キャリア教育・社会参画」に関わる教材が充実している。次に、光村図書である。質の高い発問例が提示されており、発問は「考えよう」「見方を変えて」「つなげよう」の3つの視点から提示されている。「考えよう」は教材を通して何を学ぶのかが意識できるようになっている。「見方を変えて」は多面的・多角的なものの見方を促す発問、「つなげよう」は道徳科での学びを

一つの教材で完結させず、今後の生活に生かしていくための発問となっている。これらのことにより、教師も生徒もこれらのことを意識しながら、考え・議論していくことができる。また、「いじめ」について考える学習が充実している。2年生では、いじめに発展しかねない「いじり」という行為について取り上げ、「いじめ」が誰の身にも起こりうる問題であることを認識させている。他には、人権擁護やジェンダーへの配慮がある。例えば、2年生の教材では、浴衣を着る男子生徒が登場する。また、1年生では、マフラーを編む男子とサッカー好きな女子の友情が教材として取り上げられている。3年生では、妬みや嫉妬を抱く男子が登場する。同じ3年生の教材では、人種や肌の色による差別や偏見への問題提起となる教材が取り上げられている。次に、日本文教出版である。3学年共通して、『『いじめ』と向き合う』と「よりよい社会と私たち」の2つのユニット学習があり、重点的に学習できるようになっている。『『いじめ』と向き合う』では、学校生活やSNSの利用、人権問題など、さまざまな側面からいじめについて考えられるようになっている。また、「よりよい社会と私たち」では、社会への参画や将来の生き方について考えることで、キャリア教育と関連づけて学ぶことができるような工夫がされている。道徳ノートには、発問ごとに生徒が考えを記入する欄と、友達と話し合った内容を記入する欄があり、生徒にとって使いやすいものとなっている。記入にあたっては、発問内容の指定がないため、教師にとっても指導の自由度が高く、授業内容に応じて使用方法を工夫することができる。次に、学研である。「生命の尊さ」に重点を置いており、どの学年でも5つ以上の教材が用意されている。読み物教材はもちろんのこと、ブラックジャックのマンガやドナーカードを扱った教材、紙芝居を用いた教材など、多様な教材を通して、いのちの大切さについて生徒たちが多面的・多角的に考えられるように工夫されている。また、生徒たちにとって身近なこととして考えられるような教材などが豊富で、興味をもって主体的に考えられるような工夫がされている。じっくりと読んで考える教材と、視覚的に興味を引く教材とのバランスが良い配列となっている。次に、廣済堂あかつきである。「考える・話し合う」が、すべての教材の終わりに掲載されている。黄色い囲みの部分には、その教材をきっかけにして授業で考えたいめあてが示されている。また、中心的な発問が2つから3つ提示されている。経験年数の少ない教員にとって、発問の選択肢が多いことは、授業を組み立てる上で、有効な支援となる。さらに、「考えを広げる・深める」という自分自身を振り返る発問は、1時間の授業の終末にふさわしい発問となっている。最後に、日本教科書である。教材名の上の番号が内容項目の番号になっているなど、視点や内容項目が明確になっている。個人から集団、集団から社会へと発展させて学んでいく工夫がされている。また、話の途中に「小見出し」を設けた教材は、各段落の要点やポイントが押さえられ、内容を理解しやすくなっている。以上が7者の主な特長である。研究委員会では、光村図書と東京書籍の教科書が優れていると認められたが、質の高い発問例が充実しているところが決め手となり、光村図書が、浜松の子供の学びにふさわしいと推薦された。選定委員会においても、協議の結果、光村図書が採択案となった。その理由は、いじめについて考える学習が充実しており、3年間のなかで、「いじめ」を様々な角度から考えられるよう教材の内容やバランスに配慮がなされている点、人権擁護や、ジェンダーフリーへの配慮がなされてお

り、登場人物や設定には、従来の固定観念に縛られないものの見方・考え方を育てようとする配慮が感じられること、また、人種や肌による差別など、日本に住む生徒が日頃意識しない点について印象的な教材を使って提示がなされ、グローバル化が進む社会を生きる生徒たちに問題意識を促している点である。

説明は以上である。

(教育長) それでは、審議に入る。道徳について、ご意見、ご質問はあるか。

(安田委員) 学校への教科書見本巡回の研究報告書では、どのような意見があったか。

(指導課指導主事) 光村図書、東京書籍ともに、研究委員会同様の反応であった。特に光村図書の教科書は、教材数は多くはないが一つ一つが精選されているため、質の高い授業が期待できる、「深めたいむ」を使ってみたい、教材に温かみがある等の意見があった。

(田中委員) 子供達の読書量が減っている中で、光村図書の教科書には、しっかりと物語を読み込ませることに重点が置かれた教材が充実していると感じた。デジタル化が進むことで、子供達が自己表現をすることや不特定多数の人とコミュニケーションをとることは得意になるかもしれないが、国語や道徳を通じて心の機微や言葉の真意深く読み取る力をつけることがトラブル回避につながると考えるため、それらの力を育む教材作りや授業構築を行って頂きたい。

(教育長) それでは、道徳に関する質疑を終了し、採決に入る。道徳については、光村図書の教科書を採択することよろしいか。

(異議なし)

(教育長) それでは、採択することとする。

以上で、本日の教育委員会を終了する。